第13講 【系統地理編】生活文化，民族・宗教

# PART6 領域と領土問題

## Chapter 1　領土問題

目標
領土問題を誘発する事柄について，考えよう。
領土をめぐる争いは，どのような場所で起こっているか，考えよう。

### 1 領土問題とは

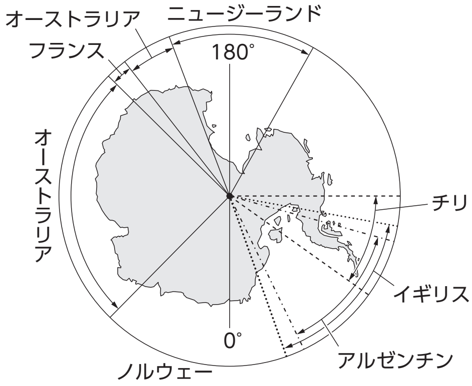
・〔　　　　　　　　〕：複数の国家による，領土の**領有権**をめぐる争い。帰属が曖昧な〔　　〕の存在や，**植民地**時代に引かれた〔　　　　　　〕，**地形**の変化などに起因して発生する。

→**アメリカ合衆国**と〔　　　　　　　　〕の国境をなす**リオグランデ川**の流路は，しばしば変わり，国境をめぐる両国の対立の原因ともなる。

### 2 世界の領土問題

| 場所 | 説明 |
|---|---|
| **南沙（スプラトリ）諸島** | ・南沙諸島は，**南シナ海**に浮かぶ島嶼。<br>・周辺の海底で**原油**や**天然ガス**の埋蔵が確認され，〔　　　　〕や**フィリピン**，**マレーシア**などが領有を主張。<br>・中国が**人工島**の建設を押し進め，他国との対立が深まる。 |
| **カシミール地方** | ・〔　　　　　〕と**パキスタン**などが領有権を争う，国境が不明瞭な地域。<br>・藩王が**ヒンドゥー教徒**，住民の多くが**ムスリム**で，独立に際し，帰属をめぐり**インド・パキスタン戦争**に発展した。 |
| **フォークランド（マルビナス）諸島** | ・〔　　　　　　　　　　〕沖合・**イギリス**の自治領，近隣で**原油**の埋蔵が確認されている。<br>・両国による領有権の主張が紛争に発展。 |
| **南極** | ・**南極条約**により「いずれの国にも属さない」と明記されているものの，周辺国やヨーロッパ諸国によりその一部の領有権が主張されている。<br>・**鉱産資源**の埋蔵が確認されている。 |

南沙諸島の人工島




各国の主張する，南極の領有権の範囲

## 3　日本の領土をめぐる問題

・日本でも周辺国との間に領土をめぐる問題が見られ，解決には至っていない。

＜日本の領土と周辺国との関係＞

| 領土 | 所属する都道府県 | 相手国 | 状況 |
|---|---|---|---|
| 〔　　　　　　　　〕（歯舞群島，色丹島，国後島，択捉島） | 北海道 | ロシア | 日本固有の領土だが，終戦直後にソ連が侵攻し占拠。現在は返還を求め交渉中。 |
| 〔　　　　〕 | 島根県 | 韓国 | 日本固有の領土だが，韓国が占拠。国際司法裁判所にて話し合いを求める。 |
| 〔　　　　　　　　〕 | 沖縄県 | 中国 | 日本固有の領土であり，領土問題は存在しないが，中国が領有を主張している。 |

北方領土

竹島

まとめ　帰属が曖昧な島の存在や，植民地時代に引かれた国境線，地形の変化など。資源を有する場所で，領土問題が発生する場合が多い。

# Chapter 2　排他的経済水域の活用

目標　排他的経済水域の設定により，日本が受けた影響を理解しよう。
日本の排他的経済水域内で，今後期待される開発について理解しよう。

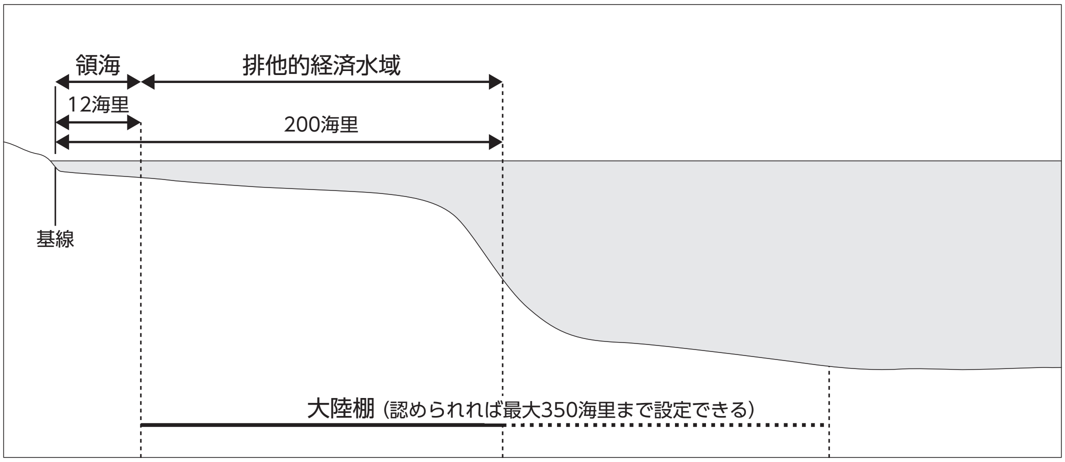
## 1　排他的経済水域（EEZ）と大陸棚

・〔　　　　　　　　　　　〕(**EEZ**)：**領海**の外側で，基線から**200海里**までの範囲。
→日本の国土面積は世界第61位であるが，領海と排他的経済水域の面積は世界で**6番目**の広さを持つ。

・〔　　　　　　〕：海岸からゆるやかに傾斜する，水深200m程までの**浅い海底**。**好漁場**であるとともに，**海底資源**の埋蔵も期待される。原則として，基線から**200海里**。

＜排他的経済水域をめぐる，日本と世界の動向＞

| | |
|---|---|
| 1980年代以前 | ・それまでは「狭い領海，広い公海」を原則とする時代だったが，**海域や資源の権利**に関する議論が始まる。<br>現在ほど明確なルールはなく，〔　　　　　　　〕などが自由に可能だった。 |
| 1982年 | ・国連海洋法条約により，**排他的経済水域**を設定。<br>→沿岸国に**水産資源・海底資源**に関わる**独占的な権利**が認められる。<br>→**遠洋漁業**を自由に行うことができず，燃料の高騰もあり，**日本の漁業は衰退**。 |
| 1994年 | ・国連海洋法条約発効。 |
| 1996年 | ・日本が，国連海洋法条約に批准。日本の**排他的経済水域**の設定。 |
| 近年 | ・〔　　　　　　　　　〕の考え方が容認されつつある。<br>→地形的・地質的に陸とつながっていることなどを条件に，その範囲を広げることができるようになり，海洋国家を中心に，**海底資源**の開発に大きな可能性が広がった。 |




領海・排他的経済水域・大陸棚の概念図

## 2 排他的経済水域内の義務と権利

・**排他的経済水域**では，沿岸国に〔　　　　　　　　〕や**水産資源**の独占的な開発を行う権利，**自然エネルギー**の活用の権利がある。一方で**生物資源**の保存の義務も負い，**漁獲量**の調整も行う。

・**外国船**の航行や**海底ケーブル**の敷設などにおいては，公海と同様に，いずれの国も自由に行うことができる。

・外国の排他的経済水域内で漁業を行うことは可能であるが，その場合は**入漁料**を支払う必要がある。このため，日本の〔　　　　　　　　〕の漁獲量は1980年代以降激減している。

## 3 日本の排他的経済水域の活用

1. 漁業

・日本の排他的経済水域が広がる**太平洋北西部**は，世界最大級の漁獲量を誇る豊かな**漁場**である。

→千島海流（〔　　　　〕）により**湧昇流**が発生し，**プランクトン**が豊富。特に**千島海流**と〔　　　　〕**海流**がぶつかる**潮目**は好漁場となる。

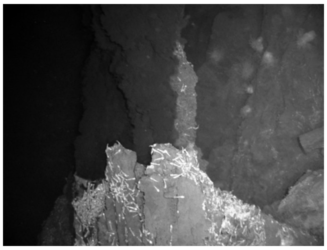
・また東シナ海は〔　　　　　〕が広がる浅海で，やはり好漁場である。

2. 鉱産資源の分布

・日本の領海および排他的経済水域内には，メタンが氷状に固形化した〔　　　　　　　　　　　　〕をはじめ，多くの**鉱産資源**の分布が確認されている。

・日本近海には，多くの**海底熱水鉱床**の存在も。

メタンハイドレート


海底熱水鉱床

まとめ

他国の排他的経済水域内での漁業が困難になり，遠洋漁業が著しく衰退した。
メタンハイドレートや，海底熱水鉱床など，各種資源の開発・採掘。

# 第 13 講 PART6　確認問題

**1** アメリカ合衆国とメキシコの国境となっている河川はどれか。

① コロラド川　② コロンビア川
③ サクラメント川　④ リオグランデ川

**2** カシミール地方の領有をめぐって主に争っている国は，インドとどの国か。

① スリランカ　② ネパール
③ パキスタン　④ バングラデシュ

**3** フォークランド（マルビナス）諸島は，イギリスとどの国が領有権を主張し合っているか。

① アルゼンチン　② オーストラリア
③ ニュージーランド　④ ブラジル

**4** 北方領土に**含まれない島**はどれか。

① 択捉島　② 国後島
③ 色丹島　④ 礼文島

**5** 日本の領海，排他的経済水域の面積は世界第何位か。

① 6 位　② 26 位
③ 46 位　④ 66 位

**6** 国連海洋法条約により，排他的経済水域が設定されたのは何年代か。

① 1960年代　② 1970年代
③ 1980年代　④ 1990年代

**7** 排他的経済水域について述べた以下の文のうち，**正しくないもの**はどれか。

① 沿岸国には，資源の独占的な開発を行う権利がある。
② 沿岸国は，生物資源の保存の義務を負う。
③ 外国船の航行や海底ケーブルの敷設は，自由に行えない。
④ 外国の排他的経済水域内で漁業を行う場合は，入漁料を支払う必要がある。

**8** 日本の排他的経済水域の利用について述べた以下の文のうち，**正しくないもの**はどれか。

① 日本の排他的経済水域が広がる太平洋北西部は，世界屈指の好漁場である。
② 東シナ海は大陸棚が広がる浅海であり，好漁場となっている。
③ 日本の領海および排他的経済水域内は，鉱産資源に乏しい。
④ 日本近海には，多くの海底熱水鉱床の存在が確認されている。

# 第13講　PART6　確認問題 解答

**1** 解答：④

**リオグランデ川**は，アメリカ合衆国とメキシコの国境をなす川。洪水によって流路が変わることがあり，両国の国境をめぐる争いの要因となる。

**2** 解答：③

**カシミール地方**の領有をめぐって，**インド**と**パキスタン**などが争っている。住民の大部分がムスリムであるが，ヒンドゥー教徒である藩王がインド帰属を表明し，紛争となった。

**3** 解答：①

**イギリス**と**アルゼンチン**が**フォークランド（マルビナス）諸島**の領有権を主張し合っており，1980 年代に紛争に発展した。

**4** 解答：④

**北方領土**は，**択捉島**，**国後島**，**色丹島**，**歯舞群島**である。礼文島は北方領土ではない。

**5** 解答：①

多数の島を有し，海岸線が長い日本の領海，排他的経済水域の面積は**世界第 6 位**である。

**6** 解答：③

**国連海洋法条約**によって排他的経済水域が設定されたのは **1980 年代**であり，以降日本の遠洋漁業は衰退した。

**7** 解答：③

**排他的経済水域**においても，**外国船の航行**や**海底ケーブルの敷設**は自由に行える。

**8** 解答：③

日本の領海および排他的経済水域内には，**メタンハイドレート**や**海底熱水鉱床**などの**鉱産資源が豊富**である。